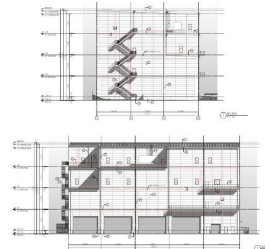


CASBEE® - 建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)枚方長尾谷NKビル開発 新築	階数	地上4F
建設地	大阪府枚方市長尾谷町	構造	S造
用途地域	工業専用地域	平均居住人員	10人
地域区分	6地域	年間使用時間	6,000時間/年(想定値)
建物用途	事務所,工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年6月 予定	評価の実施日	2024年8月7日
敷地面積	3,230 m ²	作成者	大和ハウス工業株式会社流通一級建築士
建築面積	1,829 m ²	確認日	2024年8月7日
延床面積	6,654 m ²	確認者	大和ハウス工業株式会社流通一級建築士



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0 ★★★★★

環境品質 G (39) vs 環境負荷 L (38)

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値: 100%
②建築物の取組み: 76%
③上記+②以外の: 76%
④上記+: 76%

92 (kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5
Q1 室内環境: 3
Q3 室外環境(敷地内): 3
LR1 エネルギー: 2
LR2 資源・マテリアル: 3
LR3 敷地外環境: 3

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.5

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.9

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.7

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.0

LR のスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.2

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.8

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

3 設計上の配慮事項		
総合	省エネルギーに配慮した設計となっている	その他 特になし。
Q1 室内環境	特になし。	Q2 サービス性能 特になし。
Q3 室外環境(敷地内)	植栽条件に応じた適切な植栽を行っている。	LR1 エネルギー 設備の高効率化を図っている。
LR2 資源・マテリアル	フリーアクセスフロアを採用している。 LGSを採用している。	LR3 敷地外環境 適切な量の駐車場、駐輪場を設けている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

【建物概要】 建物名称	(仮称)枚方長尾谷NKビル開発 新築工事						
建設地	大阪府枚方市長尾谷町						
用途/区分	事務所 工場						
【評価結果】	CASBEE 総合評価					B+	
①	CO2削減					4	
②	みどり・ヒート アイランド対策					2	
③	断熱性能					5	
		<small>建築物省エネ法に基づく 省エネ性能ラベル</small>	<small>住宅(住棟)又は 複合建築物の住宅部分</small>	評価対象外		評価対象外	
④	エネルギー消費性能					5	
		<small>建築物省エネ法に基づく 省エネ性能ラベル</small>	<small>住宅(住棟)又は 複合建築物の住宅部分</small>	評価対象外		評価対象外	
	<small>非住宅建築物又は 複合建築物の非住宅部分</small>					5	
⑤	自然エネルギー直接利用					—	
	再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—
エネルギー消費量の報告						報告しない	
【評価項目】							
項目	評価内容					スコア	評価
① CO2削減	CASBEE LR3 敷地外環境 1. 地球温暖化への配慮					3.9	4
② みどり・ヒートアイランド対策							
生物環境の保全と創出	CASBEE Q3 室外環境(敷地内) 1. 生物環境の保全と創出					2.0	2
敷地内温熱環境の向上	CASBEE Q3 室外環境(敷地内) 3.2 敷地内温熱環境の向上					2.0	
温熱環境悪化の改善	CASBEE LR3 敷地外環 2.2 温熱環境悪化の改善					2.0	
③ 断熱性能	CASBEE LR1 エネルギー 1. 建物外皮の熱負荷抑制					5.0	5
④ エネルギー消費性能	CASBEE LR1 エネルギー 3. 設備システムの効率化					5.0	5
⑤ 自然エネルギー利用	CASBEE LR1 エネルギー 2. 自然エネルギー利用					3.0	—
エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。					報告する 報告しない	報告しない
その他							
先進的技術の導入	技術の名称			考慮事項			
特に配慮した事項							